

世代を超えて絆を深める



3月10日(日)杷木志波政所地区において道路清掃作業とふれあい餅つき体験会が実施された。昨年12月から2回目となるもので学生ボランティア30名と地域住民20名が集まり、暖かな春の晴天の中、まさしく老若男女が世代を超えて復旧・復興作業を行い、そして交流を通して絆を深めた。

当センターで精力的に活動している仲間の居住する地区で地域住民と学生ボランティアとともに汗を流し、親交を深めることができた。



九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。

大きな被害の中で

柿畑が広がる政所公民館前で早朝からミーティングを行い、それぞれの持ち場に分かれて作業が行われた。大雨による土砂崩れで道路の側溝を埋めていた土砂を搬出、また道路周辺の清掃を行った。山上部では流倒木の撤去等も行われたが、作業を行う中で山頂へ続く道路周辺は土砂崩れ等大きな被害があったが、道路は守られており偶然ではない神秘的なものを感じた。



復旧・復興へ若い力とともに

朝から午後3時頃まで作業は行われ、その後は公民館前で交流会を開催。餅つき体験では地域の女性陣も加わり、交流の輪を広げた。さらに懇親会も行われ、和やかな一日となった。孫のような学生に対し、懇切丁寧に指導する地域住民の方々の表情はとも明るく笑顔にあふれていた。復興とは単に作業を行うのみでなく、多くの方々が関わり、みんなで取り組んでいくことであり、これからも復旧・復興作業を通じてふれあいを広げ絆を深めていきたい。